



リュックが梅でいっぱい…



梅取りに行きました。梅畑に着くと「ここに大きい梅があるよ」「あっちにも！」「とって！とって！」と木になっている梅を見つけた子どもたちは大はしゃぎ。梅畑のお手伝いの太田さんやボランティアのお母さんたちが棒を使って梅を落とすと、「痛いっ！」と頭に梅のシャワーを浴びながらも、必死に拾い集める様子が見られました。そして、持って行ったビニール袋がいっぱいになってしまうと、「クラスの梅ジュースを作る分」や「休んだ友達の分」の梅を拾っている優しい子もいました。

ほし組さんは初めて園バスに乗車。ワクワク、ドキドキ…とても嬉しそうでした。でも、帰りはみんなで幼稚園まで頑張って歩きました。「重たいけど、頑張る！」と梅でバンパンになったリュックを背負って歩く姿にたくましさを感じました。翌日、梅取りに行けなかった友達にその日の様子を、身振り手振りで知らせようとする姿が可愛かったです。品川農園さんのご厚意に心から感謝します。これからも、地域の方との交流を大切にしていきたいと思ひます。



取ってきた梅でジュースを作りました。今年は、2通りの作り方に挑戦しました。



- ① 冷凍室に入れて凍らせた梅
- ② 凍らせず穴を7個（子どもたちのこだわり）あけた梅



梅ジュースに興味津々の子どもたちは、「砂糖が解けてる」「水が増えた」と毎日の変化を楽しみに観察しています。

さて、どちらの作り方の梅ジュースが早くできるかな？美味しくできるかな？結果をお楽しみに…

いちについて、よーい、どん！



各小学校で運動会がありました。お家の人と一緒に、お兄さん、お姉さんの応援をした子もいたと思います。卒園した子どもたちも踊りにかけっこに…と頑張っている姿が見られました。

運動会の翌日から、園でもリレーごっこが始まりました。昨年の経験もある年長、年中の子どもたちがバトンを持ち「よーい、どん」。園庭のコースを何周も回っていました。「チームを決めよう」「スタートはこっち」と友達と声を掛け合ったり、負けて悔し涙を流したり、ゴールを目の前に諦めたりなど様々な様子が見られています。これから、何度もリレーを繰り返して、いろいろな思いを経験して行くのでしょう。

幼稚園の運動会は10月。当日どんなリレーが見られるか、今から楽しみです！

これからも、小学生、中学生とのふれあい、たくさん刺激を受けられるような機会をもっていきたいと思ひます。



お友達たくさんできたね！



クロスカントリーで、認定こども園と交流をしました。

以前は、年に数回、こども園と交流をしていたのですが、感染症流行の影響で近年は交流の機会がなくなり、今年度はぜひ！と声をかけ実現しました。

はじめは緊張気味の子どもたちでしたが、顔見知りの友達を見つけ「○○ちゃん～」と呼び合ったり、手を繋いで遊び出したり、いつの間にか仲良くなっていました。

お別れする時には、「また、遊ぼうね」「今度は幼稚園に来てね」「お弁当食べようね」と友達とハイタッチをしたり、握手をしたり、中にはぎゅ〜っと抱き合っている子もいました。

今年度は交流する機会をもっとつくっていききたいと思ひます。



先日、町内の小学校、中学校、高校、こども園、河津・さくら幼稚園の先生方が来園し、ひがしいず幼稚園で『幼小小架け橋研修会』が行われました。

午前中は、保育の様子を見ていただき、午後からは“遊びの中の学び”の講義と“町の子どもたちに育みたい力とは…”などのグループ協議を行い、研修を深めました。



保育参観や講義を聞いた先生方の感想（一部抜粋）

幼稚園でも振り返りを行い、次の日の遊びに生かしていると聞き、驚きました。自分だけでなく、友達の意見も聞き、自分に必要な情報を取り入れていくことは、小学校の授業での話し合い活動につながる、大切な経験だと思いました。（小学校教諭）

自然物との出会いの場や、色遊びの際の色の比較の場面などがあり、小学校での活動につながる学びがされていた。（中学校教諭）

互いの教育の場面から子どもの姿を通して話しをし、指導に必要なヒントを互いに出し合い、互いに繋がる意識や繋げる働きかけをするきっかけが出来たように思いました。（幼稚園教諭）

幼稚園教諭も、学校での学びを知ること、現場の声を聞くことがとても大切であることを改めて感じました。生活科の教科書は幼稚園体験と通じるところがたくさんありました。子どもたちがたくさん経験の幼稚園でし、小学校でそれを知識として獲得していく…という共通理解もでき、とてもいい機会となりました。これで終わりとせず、どんどん小学校に出掛けたいと思ひます。（幼稚園教諭）

育っている力をしっかりと受け取って、小学校で生かしていけるようにしたい。（小学校教諭）

中学校の教育にもそのまま当てはまることばかりで、幼児教育から中学校の教育に至るまで、根幹は同じであると実感しました。だからこそ、そのつながりを意識した連携が今後必要だと思いました。（中学校教諭）

幼児期の教育が日々の遊びが学びの基礎になっていて、その基礎となるものは、いろいろな体験を通して夢中になって遊びを楽しむ事。その中で、気づいたり感じたり調べたり工夫したりすることの積み重ねこそが学びの土台になるのだと改めて分かりました。（幼稚園教諭）

幼稚園での学びが小学校の学びへと接続されていることが、見える化で具体的に理解できました。小学校の先生の幼小接続に対する意識の深さを感じ、幼稚園からも、もっと小学校について知ろうとする気持ちを持ち、行動していかななくてはと感じました。（幼稚園教諭）



これまでも、行事や実習などで、子どもたちの交流や先生同士の研修を続けてきました。今回は、「この遊びから、こういうことを学んでいますよ」「こういうことが小学校に行ってから力につながっています」など、講師の先生の話聞いたことで、学校の先生方にも伝わり、幼稚園教育（ひがしいず幼稚園の教育活動）をわかってもらうことができました。特に小学校とのつながりの深まりを感じたので、これからも、町内の学校と連携を密にし、交流していきたいと思ひます。

